

資料

平成26年度性器クラミジア・淋菌感染症抗原検査結果概要

江藤良樹・西田雅博・岡元冬樹・前田詠里子・村上光一・世良暢之

平成26年度に当所に検査依頼された性器クラミジア・淋菌感染症抗原検査検体の総数は 846 件（男性 501 名、女性 339 名、性別不明 6 名）であった。そのうち、クラミジア抗原陽性者は52 名（男性 19 名、女性 33 名）で、陽性率は 6.1% であった。一方、淋菌抗原陽性者は2名（男性 1 名、女性 1 名）で、陽性率は 0.2% であった。

[キーワード：性器クラミジア、淋菌、抗原検査]

1 はじめに

クラミジアおよび淋菌感染症は、性感染症の中で罹患患者数が多い疾患である。いずれも平成14年をピークに減少傾向にあるが、平成25年の感染症発生動向調査では性器クラミジア感染症として25,606名、淋菌感染症として9,488名が報告されている¹⁾。患者数が多い原因のひとつとして無症候性の感染者の存在が指摘されている。本人が感染していることに気づかないまま性交渉を行い相手に感染させ、新たな感染者も感染に気がつかずに、さらに感染を拡大させるという“無症候性感染の連鎖”によって、若者の間で感染が拡大することが懸念されている^{2,3)}。

福岡県では性感染症予防対策の一環として、平成 16 年 3 月より性器クラミジア感染症について抗体検査を実施していたが平成 25 年 4 月より尿を検体とした抗原検査に変更し、性器クラミジア感染症に加えて、淋菌感染症についても検査を実施している。福岡県では、県内の保健福祉（環境）事務所にて性感染症の相談を実施しており、性器クラミジア、及び、淋菌感染症検査の希望者に対して採尿を行っている。当所では、保健福祉（環境）事務所で採取された検体について抗原検査を実施している。本稿では、平成 26 年度に実施した検査の概要について報告する。

2 方法

2・1 検体

平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月にかけて、週に一度、県内 9 保健福祉（環境）事務所にて採取された尿 846 件（男性 501 名、女性 339 名、性別不明 6 名）を用いた。カップに採取した初尿（20-30 mL）から2 mLを尿搬送チューブに入れてチューブ内の尿搬送液と混和させたものを検体とした。

2・2 検査項目

初尿中のクラミジア抗原及び淋菌抗原について検査を実施した。

2・3 試薬及び機器

クラミジア及び淋菌抗原検査には、ホロジックジャパン（株）製のキット、アプティマ Combo2 クラミジア/ゴノレアを、機器は As-1000 増幅検出機/Ps-1000 分離機（富士レビオ（株））をそれぞれ用いた。

2・4 検査方法

テンチューブユニット（TTU）に RNA 抽出液を 100 μ L 分注し、そこに陽性コントロール（クラミジア、淋菌）、又は、尿検体 400 μ L を加え、手で緩やかに攪拌した。Ps-1000 分離機に TTU をセットし、ターゲットキャプチャー法によりクラミジア、及び、淋菌の RNA を精製した。さらに、TTU を As-1000 増幅検出機にセットし、Transcription mediated amplification (TMA) 法による RNA 増幅後、発光特性の異なるプローブを用いたハイブリダイゼーションによりクラミジア、淋菌の検出を行った。

3 結果

平成 26 年度の性器クラミジア、淋菌抗原検査結果、年齢区分別検体搬入数、抗原陽性数（陽性率）を表 1 に示す。検体搬入数は男性では 30歳代が 168 名と最も多く、次いで 20 歳代で 154 名であった。女性では 20 歳代で 151 名と最も多く、次いで 30 歳代で 106 名であった（表 1）。クラミジア抗原陽性は 52 名（男性 19 名、女性 33 名）、淋菌抗原陽性は 2 名（男性 1 名、女性 1 名）であった。クラミジア抗原陽性率は全体で 6.1%（男性 3.8%、女性 9.7%）であり、陽性率は男性より女性の方が有意に高かった（ $p<0.05$, chi-square test）。また、全年

年齢区分の男女間を比較したところ、20 歳代のみ女性のクラミジア抗原陽性率が有意に高かった（ $p<0.05$, chi-square test）。

4 考察

厚生労働省の性感染症報告数による全国の性器クラミジア感染症、淋菌感染症の定点当たりの報告数は、平成 14 年のそれぞれ 47.73、23.91 をピークに平成 25 年はそれぞれ 26.29、9.74 と減少傾向にある¹⁾。一方、福岡県結核・感染症発生動向調査事業による性器クラミジア感染症、淋菌感染症の定点当たりの報告数は、平成 11 年のそれぞれ 98.3、80.1 をピークに、平成 25 年はそれぞれ 41.3、18.4 と減少傾向にあるものの全国平均よりも高い⁴⁾。また、福岡県結核・感染症発生動向調査事業による性器クラミジア感染症の報告によると、平成 25 年の男性患者数は 878 名、女性患者数は 651 名と男性の方が多いが、本事業の結果では女性の陽性率の方が高かった。このことは、クラミジアの感染により症状が出やすい男性は病院を受診する一方で、症状の出にくい女性では感染に気がついてない状況を反映しているものと考えられる。特に 20 代の女性では、20 代男性と比べて有意に陽性率が高いことから、感染拡大を防ぐために多くの方に検査を受診するよう促す必要があ

る。また、10 代では、男女ともに陽性率が 20% を超えるにも関わらず検査数が少ない現状にあることから、検査を促すと共に教育・啓発活動が必要と考えられた。

文献

- 1) 厚生労働省：性感染症報告数
(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>).
- 2) 小野寺昭一：Urology View 2009；7：10—17.
- 3) 熊本悦明，川名 尚：医事新報 2008；4388：65-68、85-91
- 4) 福岡県結核・感染症発生動向調査事業資料集平成 25 年，平成 26 年 3 月

表 1 年齢区分別検体搬入数及び抗原陽性数（陽性率）*

性別	年齢区分	検体数	クラミジア 陽性数 (陽性率)	淋菌 陽性数 (陽性率)
男性	～19歳	7	2 (28.6%)	0 (0.0%)
	20～29歳	154	6 (3.9%)	1 (0.6%)
	30～39歳	168	8 (4.8%)	0 (0.0%)
	40～49歳	85	3 (3.5%)	0 (0.0%)
	50～59歳	38	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	60歳～	48	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	不明	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	小計	501	19 (3.8%)	1 (0.2%)
女性	～19歳	23	5 (21.7%)	0 (0.0%)
	20～29歳	151	17 (11.3%)	1 (0.7%)
	30～39歳	106	9 (8.5%)	0 (0.0%)
	40～49歳	31	1 (3.2%)	0 (0.0%)
	50～59歳	13	1 (7.7%)	0 (0.0%)
	60歳～	15	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	小計	339	33 (9.7%)	1 (0.3%)
不明		6	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	計	846	52 (6.1%)	2 (0.2%)

*年齢等は自己申告による